

The Reminiscence of Exellia NG+1

偽りの玉座、示す民意

作成レギュレーション

基本概要（新規／継続）

- ・ 経験点：133500／145000 点
- ・ 資金：249000／273000G
- ・ 名誉点：1500／1800 点
- ・ 成長回数：259 回
- ・ レベル制限：13
- ・ アイテムレベル制限：武器ランク S 以上
推奨：防具ランク S 以上
- ・ ステータスリミット：各項目ボーナス 13（+増強増分 1）まで

制限事項

- ・ ヴァグランツ、蛮族 PC 禁止
- ・ SW2.0／2.5 標準流派入門・使用禁止
- ・ 武器防具強化に関する特殊制限
- ・ シナリオの成長回数が 10 以上のとき、60%以上の偏重割り振りの禁止

その他注意事項

- ・ 制限を逸脱した成長を行った PC は、レベルシンクが行われます。
レベルの上限を突破した成長を行った場合、レベルが下限に合わせられます。
ステータスリミットの制約を無視した成長を行っていた場合、成長の振り直しが行われます。このとき、キャラクターシートのデータは振り直し後のものになります。
- ・ 成長回数の制約を逸脱した成長を行っていたキャラクターシートが見られた場合、このキャンペーンは強制的に終了します。

動画用メモ

その他メモ

導入部の話

大まかに列挙。

・初手パートで、プトレマイオス内の『特殊な人型機動兵器（＝ダブルオーザンライザー・セブンソード/G）』の起動テストを実行する。PC もその場にいる。時系列的には選挙の2週間前。

・システィナ視点。旧来派のうち、タカ派に属する者達との抗争を描く（PC もいる）。時系列的には選挙の1週間前。

・セリーヌ視点。召喚獣の力を使いこなすための訓練を、PC が見守るパート。時系列はシスティナ視点の2日後。

導入

天使再臨

選挙の投票日、その2週間前。白樺澄基地の機動兵器ハッチにて、それは或る試験を受けていた。いつしかリーンが見かけた、「ロストテクノロジーの塊」…。ダブルオーザンライザー・セブンソード/G。その起動試験だった。

機体の調子はよく、残すは『ツインドライヴシステム』の稼働確認だけだ。

プトレマイオスクルー

「ダブルオー、起動シークエンスを開始します」

席に座るクルーの後ろに立っている、トーレスが口を開く。

トーレス

「リーン、指定したとおりに操作して起動しろ」

リーン

『はい』

両肩の|封《リポーズ》が解かれ、唸るように粒子を放出し始める。

トーレス

「融合率は？」

プトレマイオスクルー

「粒子融合率、83%。安定領域ではありますが、不安が残る粒子量です」

トーレス

「…だ、そうだ。セブンソードの安定システムを起動してくれ」

リーン

『はい…』

(※GMメモ：RP待機)

リーンがガチャガチャと操作すると、セブンソード装備に搭載された粒子融合率安定システムが起動する。粒子融合率が90%を超えたあたりから、様子がおかしくなっていく。その結果、格納庫そばに置かれた管制室の、端末から警告音が鳴り響く。

トーレス

「何が起きている…？」

プトレマイオスクルー

「粒子融合率、理論限界値を超過！このままでは…！」

なにかよからぬことが起きる、と語られるも、即座にセーフティが起動する。

両肩部の一部に、塗装されているとはいえ搭載された『雷気を別のものにする石』の力が作用し、莫大な粒子を一気にエーテルに還元する。

そうして暫くした後に、その魔動機の双眸に光が灯った。

(※GMメモ：RP待機)

なお、降りたリーンはヘトヘトだった。何があったのだろうか…。

伴星は歩いて

ダブルオーの起動実験から一週間後。

君達がぼけーっとしているところに、システィナが立ち入る。

(※GMメモ：RP待機)

システィナ

「いい加減、木人を叩いたらどう？」

(※GMメモ：RP待機)

面倒くさがる君達を見て、システィナの視線は非常に冷たいものになる。

(※GMメモ：RP待機)

君達は、渋々白樺澄基地内に用意された、『訓練場』に立ち寄るだろう。

(※GMメモ：RP待機)

武器を構え、訓練の相手を待つ。

戦闘訓練プログラム

『戦闘訓練プログラム、第1フェーズを開始します。

今回の対象は…残影のエクセリア』

幻影が投影される。そこに映し出されたのは、見覚えのある影。

戦闘訓練プログラム

『それでは、戦闘を開始します』

(※GMメモ：RP待機)

敵：残影のエクセリア

この『残影のエクセリア』は、第4話で戦ったときよりも強化されており、別データを参照する。

君達は、残影のエクセリアを打倒した。

戦闘訓練プログラム

『目標の撃破を確認。訓練は終了です、お疲れ様でした』

二人の『エクセリア』

後日。議会の場でエクセリアは、目の前に龍姫公を据えたまま、顔をしかめていた。

龍姫公

「…私の要求は、その玉座の返却だよ。そして、私が制定した法律の再施行。

それが受け入れられないのであれば、《宙準星の巫女》たるお前を逆賊として討つ」

龍姫公は、その憎悪を隠すことなく、エクセリアに宣告する。

一方のエクセリアは…乗り気ではないようだ。

エクセリア

「この国は大きくなった、お前が思っている以上に…。それにお前、あの時は絶対君主制だからやりたい放題だったというのもあったが…、国民から馬鹿みたいに搾取していたようだな。なんだ、所得税 80%って。その事実を受け止めた上で、私達が必死に敷いた議会制民主主義を否定するのか？」

(※GMメモ：RP 待機)

エクセリアがそう訊くと、龍姫公は戸惑うように下を見る。

龍姫公

「なぜ、そんな得体の知れない制度を導入したんだ。

たかが下民風情が、政治に口出しするなどあってはならないというのに」

エクセリア

「下民と罵るのはよくねえぞ。民草の意見を取り入れるのも、為政者の役目だ。旧来派ってのは、それを快く思わない連中で、お前の政治を評価した奴らってことになる。

それに…所得税 80%と消費税 150%の重税…。これについて、弁明してもらおうか」

エクセリアは確信を突くように、本題を訊く。

龍姫公

「下民から税を徴収するのは国の役目でしょ？」

(※GMメモ：RP 待機)

エクセリアはそれを訊いただけで、心底呆れたような表情を浮かべていた。

エクセリア

「金の回りをよーく見直して、思ったことがひとつある。消費税はまあいい…。

そのうちの6割から8割が、軍事費や社会福祉に使われていたからな…。

流石に消費税は25%まで下げたとはいえ、なければ国が回らんとするののもまた事実。

だが、所得税80%はやりすぎだ。これはもはや『国民を第一に思った税率』ではなく、『国民から絞り尽くすための税率』だと思うんだ。

それでも、一応は聖王家の端くれ。政治ぐらいは学んでいるからな…所得税を上げすぎではいけないことくらい、アホな私でも分かる」

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「…で。改正前の所得税と、消費税の2割から4割。これは、どのように使っていた？」

龍姫公

「それを下民に説いて何になる？御託はいい、さっさと政權を返せ」

強硬姿勢を崩さない彼女は、エクセリアに、それこそ実力を行使させるに値するほどの激情を抱かせた。

一瞬、髪飾りが宙準星の竜のように変わったのを、君達は見逃さなかった。

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「…ここで憤っても意味はないな。

龍姫公エクセリア。お前に、国民の判断の重要性を教えよう。今の龍刻には、国民投票という仕組みが備わっている。それを活用して、国民に私達の意見の是非を問う」

国民の総意

それから、8日後。龍姫公、エクセリア双方が『投票せず静観する』という条件の下、国民投票が行われた。

龍姫公は、エクセリアの政權を愚と断じ、『絶対君主制の正しさ』を説いた。

一方エクセリアは、これまで積み上げてきた政治活動の内容を事細かに説明し、これさえも説明できない絶対君主制は腐敗が発生しやすいと警告。『国民に奉仕しない絶対君主制はただの悪意である』として、議会制民主主義の優位性を説いた。

結果はどうだ。

得票数 98%という、あまりにもブツ飛んでいて、凡そ我々には想像できない票の荒れ方をしたではないか。…そう、エクセリアが大勝したのだ。エクセリア自身も、「旧来派が蔓延っている段階で、私が勝つ見込みはない」と推定した上で、だ。

(※GMメモ：RP待機)

龍姫公

「これが、現実だと…？」

エクセリア

「法改正の意図を、明示できないのが仇になったとは思えない…。減税か…？」

…エクセリアが宇宙猫状態になっているのを他所に、龍姫公は君達に対して憤慨する。

龍姫公

「超える力で…下民に指示したんだろう！なァ、そうだろう！？」

(※GMメモ：RP待機)

無論、言いがかりだ。

龍姫公は、明らかに苛立った様子で顕現した。

フレイディアの上空に飛び立った『闇喰竜』は、街に闇の波動を放ち焼いた。

龍姫公

『壊れてしまえ…！こんな世界、壊れてしまえ…！』

敵：ミディール

勝利条件：ミディールの HP を 30%以下にする。

君達はミディールを退けた。

龍姫公

『邪魔をするな…！』

闇喰竜が放つ闇の魔力により、君達はいとも容易く撥ね除けられる。

(※GMメモ：RP待機)

動けなくなっている君達を、ベルリオーズが回収する。

そして、フレイディアを蹂躪した闇喰竜は、その憎悪をそのままに、撤退していった。

戦闘訓練プログラム・フェーズ2

翌日。

(※GMメモ：RP待機)

君達は、少なからず『強くなりたい』と願ったはずだ。

そこへ、とある男が声をかける。

異邦の詩人

「やあ。私はしがない詩人だ。

君達の冒険を元に、異なる道筋を辿った戦歴を作っているよ。

君達は、これまで突拍子もない冒険をしてきたはずだ。何か、印象に残っている旅路はあるかい？」

(※GMメモ：「始原の十四席の手ほどき」関連のRP待機)

異邦の詩人

「最果ての聖王、エクセリアとの手ほどきか。なるほど、確かにそれは興味深いね。

もし、彼女がそれまで以上に力を蓄えていて、それを全力で使ってきたらどうなるか、気になるんじゃないか？」

(※GMメモ：RP待機)

異邦の詩人

「ここで、詩の力を借りてそれを具現化としよう。

『旧き世界を歩んだ聖王は その身に宿す願い故に』『集いしそれは 新たに準星をつなぎ止め、神雨となりて世界を祓う』」

コンテンツ解放：終滅幻想 エクセリア征魂戦

報酬

経験点

このシナリオに経験点報酬はありません。

資金

・ 基本：9000G

名誉点

このシナリオに名誉点報酬はありません。

成長回数

・ 基本：8 回